入力フォーム

1.	入力フォーム機能の概要	4
	1-1. 入力フォーム機能の概要	. 4
	1-2.Create!Form Screen が提供する主な機能	. 4
	入力フォーム機能	. 4
	アクション機能	. 4
	1-3. Create!Form Cast での入力フォームの表示	. 4
2.	入力フォームの作成	6
	2-1. 入力フォームを作る	. 6
	入力フォームオブジェクトの定義方法	. 6
	入力フォームオブジェクト属性ダイアログの構成	. 6
	2-2. 入力フォームの外観、表示状態を設定する	. 7
	フォントを設定する	. 7
	背景色を設定する	. 8
	境界線を設定する	. 8
	入力フォームの表示 / 非表示を設定する	. 9
	入力フォームを読取専用にする	. 9
	入力フォームへの入力(選択)を必須にする	. 9
	入力フォームプロパティ設定のエラーチェック	. 9
	2-3. テキスト入力を行う入力フォームを作る - テキストボックス	10
	初期値を指定する	10
	プレースホルダーを設定する	10
	テキストの配置を指定する	10
	入力可能な最大文字数を指定する	11
	複数行のテキスト入力を可能にする	11
	テキストボックス内でスクロールを可能にする	11
	パスワード入力を行うテキストボックスを作る	11
	マス目に区切られたテキストボックスを作る(Cast のみ)	12
	出力時にテキストボックスに出力するデータが空白の場合、初期値を出力する	12
	2-4. 単一項目が選択可能なメニューを作る - コンボボックス	12
	項目を追加(編集・削除)する	13
	外部の CSV ファイルから項目をインポートする	13
	初期選択項目を指定する	14
	登録した項目を並べ替える.......	14
	2-5. メニューリストを作る - リストボックス	15
	複数の項目を選択可能にする	15
	項目を追加(編集・削除)する	15
	外部の CSV ファイルから項目をインポートする	15
	初期選択項目を指定する	15
	登録した項目を並べ替える	15
	2-6. チェックボックスを作る - チェックボックス	15
	チェックマークのスタイルを指定する	16

	チェック時の値を指定する....................................	. 16
	非チェック時の値を指定する	. 16
	デフォルトで選択状態にする	. 17
	ラベルテキストを表示する	. 17
	2-7. ラジオボタンを作る - ラジオボタン	. 17
	チェックマークのスタイルを指定する	. 18
	チェック時の値を指定する....................................	. 18
	デフォルトで選択状態にする	. 18
	ラベルテキストを表示する	. 18
	2-8. ボタンを作る - ボタン	. 18
	ボタンに表示するテキストを指定する	. 18
	2-9. 送信ボタンを作る - サブミットボタン	. 19
	ボタンに表示するテキストを指定する	. 19
	フォームデータを処理するサーバースクリプトの URL を指定する	. 19
	2-10. クリアボタンを作る - リセットボタン	. 20
	ボタンに表示するテキストを指定する	. 20
3.	入力フォームに特殊機能をつける	21
	3-1. 入力したテキストの表示形式を指定する - フォーマット	. 21
	入力したテキストを数値表記する	. 21
	入力したテキストをパーセント表記する	. 23
	入力したテキストを日付表記する	. 24
	サブミット時の送信値	. 26
	内部値の取得・設定	. 27
	3-2. 他の入力フォーム間の値の計算結果を表示させる - 計算	. 28
	入力フォームを指定して計算に使用する	. 28
	任意の値を計算に使用する	. 30
	3-3. 入力した(選択した)入力フォームの値を検証する - 検証	. 31
	テキストボックスの値の範囲を数値で指定する	. 31
	3-4. アクションを組み込む	. 32
	入力フォームにアクションを組み込む	. 32
	ページにアクションを組み込む	. 33
	アクションを組み込む - JavaScriptの実行	. 34
	3-5. 入力チェック	. 35
	入力チェックの種類	. 35
	人力エラー発生時の挙動	. 35
	人力チェックが発生するタイミンク	. 35
4.	外部からのテータを反映させる	37
	4-1. 初期データを外部データから指定する	. 37
	テキストホックスに表示するテキストを外部テータから指定する	. 37
	選択状態にするメニュー項目を外部ナータから指定する	. 37
	ナェックマークを入れる頃日を外部ナータから指定する	. 3/ 07
	ノオームナーダの达信先 UKL を外部ナーダから指定する	. ა/ ეი
	4-2. ハルフォームオ ノンエクトにナーダ < ツビングを行う	. აԾ ეი
	メツレノソ月広	. აბ ეი
	メツレノツ アーダ	. აö

	4-3. データマッピングを行わない場合に反映される入力フォームの値	38
5.	値の同期	39
	5-1. 同名オブジェクトの値の同期	39
	5-2. ページインデックス	39
	5-3. 複数ページ間で値が同期されるときの挙動	39
	5-3-1. ページインデックスを付与しない場合の送信時の name 値	40
	5-4. 複数ページ間で値を同期させたくない場合	40
	5-4-1. ページインデックスを付与する場合の送信時の name 値	40
	5-5. フォーム識別子	41
	5-6. 各種オブジェクト毎の同期の挙動	41
	5-6-1. 同期対象のオブジェクト	41
	5-6-2. 各種オブジェクトの同期のルール	42
6.	Tips	43
	6-1. 出力時に入力フォームの外観、状態を切り替える - FormSwitch オプション	43
	出力パターン別に入力フォームの外観設定を行う	43
	出力パターン別にファイルの出力を行う	44
	6-2. メニュー項目を外部データから取り込む	45
	6-3. 指定したサーバースクリプトにフォームデータを送信する	46
	送信されるフォームデータ	46
	データ送信形式とその処理方法の例	47
	送信時の文字コード	47
	6-4. ツールチップを表示させる	48
	6-5. Tab キーで移動する順序を指定する	48
	選択した入力フォームのタブ順序を先頭に指定する	49
	選択した入力フォームのタブ順序を最後尾に指定する	49
	選択した入力フォームのタブ順序を1つ上げる	49
	選択した入力フォームのタブ順序を1つ下げる	49
	選択した入力フォームのタブ順序を任意の位置に指定する	49
	選択した入力フォームをタブオーダーの対象外にする	49
	タブオーダー対象外入力フォームを再度タブオーダーの対象にする	50
	複数ページ時のタブオーダー	50
	6-6. JavaScriptを使用する	50
	JavaScript をコーディングする	50
	6-7. JavaScript を外部エディターを用いて編集する	51
	任意の外部エディターを登録する	51
	外部エディターを起動する	52
	6-8. 外部の JavaScript / CSS を適用する	52
	外部ファイルの指定方法	52
	ファイル指定で追加できるファイル...............................	53
	6-9. セレクターを用いて特定のオブジェクトにアクセスする	54
	CSS クラス名によるアクセス	54
	name 属性によるアクセス	54

1. 入力フォーム機能の概要

1-1. 入力フォーム機能の概要

入力フォームは HTML ファイル上に設けられた入力フォームに対してテキスト入力や選択と いったユーザーと HTML ファイル間の対話を可能にするインタラクティブ(対話)機能です。 Create!Form Screen では、入力フォーム機能を実装するためのオブジェクト(以下入力フォー ムオブジェクトと呼びます)を含む HTML ファイルの出力を行うことができます。 入力フォーム機能は Google Chrome 等のブラウザー上で動作します。

- 1-2. Create!Form Screen が提供する主な機能
 - 入力フォーム機能

Create!Form Screen では8種類の入力フォームオブジェクトをサポートしています。

テキストボックス	ボタン
コンボボックス	サブミットボタン
リストボックス	リセットボタン
チェックボックス	
ラジオボタン	

これらのオブジェクトの機能を用いて以下のような機能を含んだHTML ファイルを出力することができます。

入力フォームに対するテキスト入力 入力フォーム項目の選択 サーバースクリプトへのフォームデータ送信 入力フォーム間の計算 入力したテキストの表示形式の変換 入力フォームデータの数値範囲の検証 入力フォーム操作によるアクションの実行

アクション機能

Create!Form Screen では、入力フォームオブジェクトを用いたインタラクティブな HTML 機能のほかに、JavaScript を組み込んでブラウザー上で任意の動作を行わせるアクション機能を 組み込むことができます。

アクション機能の詳細については、「3-4. アクションを組み込む」をご覧ください。

1-3. Create!Form Cast での入力フォームの表示

入力フォームオブジェクトは Create! Form Cast ランタイムでも出力できます。入力フォーム オブジェクトを Cast ランタイムで出力した場合、以下のような出力になります。

・PDF 出力時の初期データは Screen ランタイムで出力される初期データと原則同様となります。 ・PDF 上で入力を行うことはできません。

- ・JavaScript やアクションは実行されません。
- ・フォントは Screen のフォントに設定された代替フォントが使用されます。

また、以下の機能は Cast でのみ有効になる機能です。これらの機能を使用した場合は Cast と Screen で異なる表示となります。

・フォントサイズ自動

・マス目区切り

2. 入力フォームの作成

- 2-1. 入力フォームを作る
 - 入力フォームオブジェクトの定義方法

入力フォームオブジェクトは Create!Form Design 付属の Form エディター上で定義します。 Form エディターのオブジェクトツールバーから各入力フォームオブジェクトを選択して、オ ブジェクト領域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで定義されます。

図:オブジェクトツールバー

				e	ok	cl	BI
テキストボ ックス	コンボボックス	リストポックス	チェックホ ックス	ラジオボタン	サブミットボタン	Jty/5 92	# 9>

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの構成

定義されたオブジェクトをダブルクリックすることで入力フォームオブジェクト属性ダイアロ グが表示されます。

図:入力フォームオブジェクト属性ダイアログ

入力フォームテキストポックス	х
わジェ外番号: 001 記述: ITEXT	
わジェか名: ITEXT000	
🔲 ツールチッフ *:	
(表示::::::::::::::::::::::::::::::::::::	
- 7ኪハシティ	
適用 OK キャンセル	

入力フォームオブジェクト属性ダイアログは次のようなタブから構成されています。 [表示]タブ

入力フォームオブジェクトの外観を設定します。

[オプション]タブ 各入力フォーム特有の設定を行います。

[アクション]タブ

入力フォームオブジェクトに対する操作に応じて動作するアクションを設定します。

[フォーマット]タブ

入力フォームオブジェクトに表示されるテキスト文字列の表示形式を設定します。 ※このタブはテキストボックスのみに含まれます。

[検証]タブ

入力フォームオブジェクトの値の範囲等を検証します。 ※このタブはテキストボックスのみに含まれます。

[計算]タブ

他の入力フォームオブジェクト間の値の計算方法を設定します。 ※このタブはテキストボックスのみに含まれます。

[位置]タブ

入力フォームオブジェクトの定義位置を設定します。

[HTML] タブ

入力フォームオブジェクトの連携情報を設定します。

2-2. 入力フォームの外観、表示状態を設定する

各入力フォームオブジェクト属性ダイアログ上の[表示]タブでは、入力フォームの外観(見 た目)に関する設定を行うことができます。

フォントを設定する

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの[表示]-[テキスト]で入力フォームオブジェク ト内で表示されるテキスト文字列のフォント設定を行うことができます。

図:テキスト設定

-テキスト			
フォント:	雪 MS明朝	▼ 色:	選択
サイス*:	10.0 🕂 🗖 7	フォントサイズ自動(Castの)み)

[フォント]

入力フォームオブジェクト上で表示されるテキスト文字列のフォントを指定します。 入力フォームオブジェクトで設定可能なフォント種別は Create!Form Screen で使用できる フォントと同様になります。Cast では Screen のフォントに設定された代替フォントが使用さ れます。

[サイズ]

入力フォームオブジェクト上で表示されるテキスト文字列のフォントサイズを指定します。 フォントサイズには2~300までの値を指定することができます。

Create!Form Cast で出力された PDF では [フォントサイズ自動 (Cast のみ)]を指定すると、 入力した文字列の長さによってフォントサイズが 4pt ~ 144pt の間で自動的に調整されるよう になります。

[色]

入力フォームオブジェクト上で表示されるテキスト文字列の色を設定します。

背景色を設定する

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの[表示]-[背景色]で入力フォームオブジェクト の領域を塗りつぶす任意の背景色を指定することができます。

図:背景色設定

┌── 背景色─	
色:	選択

[背景色]

入力フォームオブジェクト領域内の背景色の有無を設定します。

[色]

入力フォームオブジェクト領域内を塗りつぶす色を設定します。

境界線を設定する

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの[表示]-[境界線]で入力フォームオブジェクト の領域を囲む境界線の有無やスタイルを設定することができます。

図:境界線設定

☑ 境界線			_
線種: 実線	▼ 線幅: 標準 ▼	線色: 選択	

[境界線]

入力フォームオブジェクトの領域を囲む境界線の描画の有無を設定します。

[スタイル]

入力フォームオブジェクトの領域を囲む境界線のスタイルを指定します。設定可能な境界線ス タイルは、

実線 破線 ベベル 切り込み 下線

の5種類です。

<u>図:境界</u>	<u>線スタイルの出力例</u>		
実線	これは"実線"です。	破線	これは"破線"です。
ベベル	これは"ベベル"です。	切り込み	これは"切り込み"です。
下線	これは"下線"です。		

[線幅]

入力フォームオブジェクトの領域を囲む境界線の線幅を "細"、"標準"、"太"から指定します。

[線色]

入力フォームオブジェクトの領域を囲む境界線の色を指定します。

入力フォームの表示 / 非表示を設定する

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの [表示]-[プロパティ]-[表示]では、出力され た HTML ファイルをブラウザー上で表示した時の入力フォームオブジェクトの表示状態を指定 することができます。

図:[表示と印刷]設定

- プロパティ □ 読取専用	表示:	表示		
🗌 必須入力	出力パターン:	設定		

入力フォームを読取専用にする

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの[表示]-[プロパティ]-[読取専用]を設定する ことで、ブラウザー上で入力フォームオブジェクトを操作することができなくなります。

<u>図:読取専用設定</u>

7"0/*74			
□ 読取専用	表示:	表示	•
□ 必須入力	出力パターン:	設定	

入力フォームへの入力(選択)を必須にする

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの [表示]-[プロパティ]-[必須入力]を設定する ことで、サブミットフォームで入力フォームデータをサーバースクリプトへ送信する際に、入 カフォームの空白データ(データの有無)の検知が行われます。サブミットフォームについて は、「6-3.指定したサーバースクリプトにフォームデータを送信する」をご覧ください。

図:必須設定

_7°D^°74				
□ 読取専用	表示:	表示	•	
[必須入力]	出力パターン:	設定		

入力フォームプロパティ設定のエラーチェック

同名のオブジェクトが存在した場合にメッセージボックスが表示されます。

义	:	X	ッ	セー	ジ	ボ	ッ	ク	ス
---	---	---	---	----	---	---	---	---	---

FormEdit		×
?	同名のオブジェクトが存在します。 同名の入力フォームオブジェクトは、一部の情報が上書きされます。 継続しますか?	
	[はい(Y)] いいえ(N)	

メッセージボックスを表示させないためには、Form エディターのメニューから[ファイル]-[環境設定]を選択し、[オプション 2] タブの[入力フォームオブジェクト]で[同名のオブジェクト確認をする。]のチェックを外してください。

2-3. テキスト入力を行う入力フォームを作る - テキストボックス

テキストボックスは、ブラウザー上の HTML ファイルに対してテキスト入力を行うことができ ます。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからテキストボックスを選択して、オブジェクト 領域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。 このテキストボックスに対して文字数制限などの特有の設定を行うためには、入力フォームオ ブジェクト属性ダイアログ内の [オプション]タブで設定を行います。

図: テキストボックスオプション設定

表示 (オブジョン) アクション フォーマット	検証 計算 位置 HTML
初期值:	^
	~
フ°レースホルダー:	
配置: 左揃え 💌	
🥅 複数行を許可する	□ 最大文字数の指定 10 🚽
□ ス加ールバーを表示する	🥅 マス目で区切る(Castのみ)
□ パスワート*	🔲 空白時に初期値を使用(出力時のみ)

各オプションの詳細については以下の項目を参照してください。

初期値を指定する

テキストボックスオプション設定の[初期値]では、リセットフォームが行われた場合にテ キストボックス内に表示されるテキスト文字列を指定します。データマッピングについては、 「4. 外部からのデータを反映させる」をご覧ください。

初期値には最大 9,999 文字の文字列を指定することができます。

また、[複数行を許可する]を指定すると、改行を含む複数行のテキストを初期値として指定 することが可能です。

プレースホルダーを設定する

テキストボックスオプション設定の[プレースホルダー]では、未入力の時に表示する文字列 を指定できます。入力内容の注意点やヒントを表示する場合に有効です。プレースホルダーに は複数行のテキストを指定することはできません。

プレースホルダーには最大 128 文字の文字列を指定することができます。

<u>図:プレースホルダー</u>

メールアドレス

例: createform@example.com

テキストの配置を指定する

ファイルの出力時、もしくはブラウザー上での入力時のテキストボックス領域内でのテキスト 文字列の表示位置を指定します。

この設定を行うには、テキストボックスオプション設定の[配置]で右揃え、中央揃え、左揃 えから選択します。初期状態では左寄せが指定されています。 なお [パスワード] が設定されている場合には、この設定を行うことはできません。この場合 は左揃えが指定されます。

図:配置によるテキスト表示位置



入力可能な最大文字数を指定する

テキストボックス内に入力可能な最大文字数を指定します。

この設定を行うには、テキストボックスオプション設定で[最大文字数の指定]を選択して任意の最大文字数を指定します。この値はバイト数ではなく文字数となります。最大文字数には 0~10,240文字を指定することができます。

複数行のテキスト入力を可能にする

テキストボックスに対して複数行のテキスト入力を可能にします。 この設定を行うには、テキストボックスオプション設定で[複数行を許可する]を選択します。

なお [パスワード]、[マス目で区切る]が設定されている場合には、この設定を行うことは できません。

テキストボックス内でスクロールを可能にする

テキストボックス内へ入力したテキストの長さが領域を越えてしまった場合に、スクロール バーを表示するようにします。

この設定を行うには、テキストボックスオプション設定で[スクロールバーを表示する]を選択します。

なお[マス目で区切る]が設定されている場合には、この設定を行うことはできません。また、 [複数行を許可する]が設定されていない場合も、この設定を行うことはできません。

パスワード入力を行うテキストボックスを作る

テキストボックス内に入力した文字列を表記上マスクして表示させます。 この設定を行うには、テキストボックスオプション設定で[パスワード]を選択します。

図 :	[パ	スワ-	-ド]	<u>出力例</u>

			•	•	•	•	•	•	•	•
--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---

なお [複数行を許可する]、[マス目で区切る]のいずれかが設定されている場合には、この 設定を行うことはできません。

※このオプションは入力したテキストをブラウザー上ではマスク表示しますが、内部では入力 された値がそのまま保持されます。 マス目に区切られたテキストボックスを作る(Cast のみ)

Create!Form Cast で出力した PDF 上で、出力されたテキストボックスの横領域を指定した文字数で分割し、マス目ごとに文字を表示することを可能にします。

この設定を行うには、テキストボックスオプション設定で[マス目で区切る(Castのみ)]を 選択し、[最大文字数の指定]で任意の文字数を指定します。この値はバイト数ではなく文字 数となります。文字数は0~999文字を指定することができます。

図: [マス目で区切る]出力例(Cast)



なお[複数行を許可する]、[スクロールバーを表示する]、[パスワード]が設定されている 場合には、この設定を行うことはできません。

出力時にテキストボックスに出力するデータが空白の場合、初期値を出力する 出力時にデータマップによって取得した外部データが空白の場合やデータマッピングされてい ない場合に、初期値で指定したテキスト文字列を表示するかどうかを指定することができます。 この設定を行うには、テキストボックスオプション設定で[空白時に初期値を使用(出力時の み)]を選択します。

※この設定は Create!Form Cast / Screen によってファイルを出力した初期状態でのみ有効で す。出力したファイルをブラウザー上で編集した際には無効となりますのでご注意ください。

2-4. 単一項目が選択可能なメニューを作る - コンボボックス

コンボボックスは HTML ファイル上に項目の一覧をポップアップ表示します。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからコンボボックスを選択して、オブジェクト領 域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。 このコンボボックスに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダイ アログ内の [オプション]タブで設定を行います。

<u>図:コンボボックスオプション設定</u>

表示 (オブジョン) アウション 位置 H	TML	
項目名	書き出し値	
	Ļ	
↑チェックを入れた項目が初期選択さ	れます 追加… 編集… 削除	
□ 項目の並べ替え □ 複数選択	インボート 全て削除	

項目を追加(編集・削除)する

メニュー項目を追加する

メニューに表示する項目を登録するためには、[追加]ボタンを押下して表示される[項目の 追加・編集]ダイアログを用いて行います。メニュー項目は256個まで登録することができます。

図:項目の追加・編集

表示	オプション	アクション	位置 HTI	ML			F
項E	1名		項目の追加	編集		×	
	リんご オレンジ		項目名: 書き出し値:	バナナ banana	3		
			ОК		キャンセ	ı	
↑ Ť ≖	ックを入れた	項目が	初期選択され	ます	追加	編集	削除

[項目名]

実際に HTML ファイル上でメニューの選択肢として表示されるテキストです。

[書き出し値]

フォームデータの送信時に選択された項目の値として出力される値です。この値を設定しない 場合は、項目名が代替値として出力されます。

メニュー項目を変更する

メニュー項目の一覧で選択されている項目を編集するためには、[編集]ボタンを押下して表示される項目の追加・編集ダイアログを用いて変更します。

メニュー項目を削除する

メニュー項目の一覧で選択されている項目を削除するためには、[削除]ボタンを押下します。 また一覧の項目をすべて削除したい場合には、[全て削除]ボタンを押下します。

外部の CSV ファイルから項目をインポートする

メニュー項目が多数存在する場合、一つ一つ手作業で登録する手間が発生します。この手間を 省くために外部の CSV ファイルにあらかじめメニュー項目を登録しておき、それをフォーム作 成時にインポートすることで項目登録作業を簡略化することができます。

外部 CSV ファイルからメニュー項目をインポートするためには、[インポート]ボタンを押下 して表示される CSV データインポートダイアログを使用します。

CSVデータインポート	×
ファイル指定	
 「 Aハ物-ン	
… ※AIは項目名、Bは書き出し値を示します。 「「項目名を書き出し値と併用する。	
	OK ++v)til

図:[CSV データインポート]

[ファイル指定]

[参照]ボタンを押下してメニュー項目のインポートに使用する CSV ファイルを指定します。

[パターン]

メニュー項目のインポートに使用する CSV ファイルのデータパターンを選択します。 次の3パターンの CSV データからメニュー項目をインポートすることができます。

Aパターン:1行に1項目の項目名と書き出し値を記述したデータ。

- [例] name1, value1, name2, value2, name3, value3,
 -
- Bパターン:項目名を1行目に、書き出し値を2行目にそれぞれ区切り文字で区切って繰り 返したデータ。
- [例] name1, name2, name3, value1, value2, value3,

Cパターン:項目名と書き出し値を区切り文字ごとに繰り返したデータ。

[例] name1, value1, name2, value2, name3, value3,

※上記の例では区切り文字にカンマを使用しています。

また項目名のみを記述した CSV ファイルを使用する場合には、[項目名を書き出し値と併用する]を設定します。この場合、項目名のみがメニュー項目の一覧として登録されます。

[CSV データ設定]

CSV ファイル内で使用されている区切り文字と制御文字を任意に指定することができます。区 切り文字、制御文字にはアスキーコード 0x21 ~ 0x3F 内の半角数字および半角記号を指定し ます。

初期の状態では区切り文字にカンマ(,)、制御文字にダブルクォーテーション(")が指定されています。

初期選択項目を指定する

登録項目の一覧上で項目名の左横にあるチェックボックスを選択することにより、このメ ニュー項目の初期選択項目を設定することができます。

リセットフォームが行われた場合やデータマッピングされていない場合には、ここで指定した 項目が選択された状態になります。データマッピングについては、「4. 外部からのデータを反 映させる」をご覧ください。

図:初期選択項目

項目名	書き出し値
シ リんご	apple
□ オレンジ	orange
ロバナナ	banana

登録した項目を並べ替える

出力時に登録されたメニュー項目を数字、アルファベット順に並べ替えることができます。 この設定を行うには、コンボボックスオプション設定で[項目の並べ替え]を選択します。

※この設定は、出力時に外部データからメニュー項目をインポートする際にも有効となります。

2-5. メニューリストを作る - リストボックス

リストボックスはHTML ファイル上に項目の一覧を表示します。登録された項目が領域内に収まらない場合には、自動的にスクロールバーがつけられます。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからリストボックスを選択して、オブジェクト領 域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで定義されます。

このリストボックスに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダイ アログ内の [オプション] タブで設定を行います。

<u>図:リストボックスオプション設定</u>

表示 (オブジョン) アウション 位置 HTI	ML	
項目名	書き出し値	<u></u>
		Ļ
↑チェックを入れた項目が初期選択され □ 項目の並べ替え □ 複数選択	ます <u>追加…」編集…」削除</u> インポート… 全て削除]

複数の項目を選択可能にする

リストボックスは通常単一の項目のみの選択となりますが、オプションを指定することにより 複数の項目をブラウザー上で選択することができるようになります。 この設定を行うには、リストボックスオプション設定で[複数選択]を選択します。

項目を追加(編集・削除)する

外部の CSV ファイルから項目をインポートする

初期選択項目を指定する

登録した項目を並べ替える

※前述の「2-4. 単一項目が選択可能なメニューを作る - コンボボックス」の項をご覧ください。

2-6. チェックボックスを作る - チェックボックス

チェックボックスは、該当する項目の可否を選択する形式のボタンです。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからチェックボックスを選択して、オブジェクト 領域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。

このチェックボックスに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダ イアログ内の [オプション]タブで設定を行います。 図:チェックボックスオプション設定

表示 [77597]7991/位置 「書き出し値	HTML]
チェック時: Yes	
非チェック時:	
🗖 デフォルトでチェックする	
── ラヘルを表示する	
テキスト:	
7x2/h: 亞 MS 明朝	▼ 色: 選択 サイズ: 10.0 ×

チェックマークのスタイルを指定する

選択した際のチェックマークの表示形式を指定することができます。

この設定を行うには、チェックボックス [表示] タブの [チェックマーク種別] から選択しま す。チェックマーク種別は "HTML 標準 "、" グラフィカル " から選択できます。

"HTML標準 "を選択した場合は、ブラウザー標準のチェックマークが表示されます。" グラフィ カル "を選択した場合は種別を "チェック "、"ひし形 "、" 円形 "、" 四角形 "、" 十字形 "、" 星形 "から選択できます。出力時の表示は以下のようになります。

図:[表示]タブ[チェックマーク種別]

- チェックマーウ				
種別: ④ ゲ	ラフィカル	○ HTML標準	色:	選択
デザイン: ヺ	エック	•	サイス*: [10.0 •

図: ″グラフィカル ″チェックマーク種別の出力例

HTML標準	(7	ジオボタ	ンの場合は	: •)		
チェック	\checkmark	ひし形	♦	円形	●	(ラジオボタンの場合は 💽)
四角形		十字形	\mathbf{X}	星形	*	

チェック時の値を指定する

フォームデータの送信の際に出力される入力フォームの実値データを設定することができます。

この設定を行うためには、チェックボックスオプション設定の[書き出し値]-[チェック時] に値を設定します。

非チェック時の値を指定する

チェックボックスでは、チェックがオフになっているときの送信データを設定することができます。

この設定を行うためには、チェックボックスオプション設定の[書き出し値]-[非チェック時] に値を設定します。空白が設定されている場合は値が送信されません。

また、[デフォルトでチェックする]が設定されている場合でも、非チェック時の値をデータ から指定することでチェックをオフに変更することができます。データマッピングについては、 「4. 外部からのデータを反映させる」をご覧ください。 デフォルトで選択状態にする

リセットフォームが行われた場合やデータマッピングされていない場合に選択状態にする初期 設定を行うことができます。データマッピングについては、「4. 外部からのデータを反映させ る」をご覧ください。

この設定を行うためには、チェックボックスオプション設定の[デフォルトでチェックする] を選択します。

ラベルテキストを表示する

チェックマークの右側にラベルテキストを表示することができます。ラベルテキストはチェックマークと連動しており、ラベルテキストのクリックでもチェック状態を切り替えることができます。ラベルテキストには最大で128文字の文字列を設定することができます。

図: ラベルテキスト



ラベルテキストを設定するには、チェックボックスオプション設定の[ラベルを表示する]に チェックを入れ、内部の[テキスト]に表示する文字列を入力します。また、[フォント]、[色]、 [サイズ]から表示するラベルテキストのフォント設定を変更できます。

図:オプション設定[ラベルを表示する]

▶ ラヘルを表示する ―――		
テキスト: 身分証明書		
7ォント: 雪 MS 明朝	◆ 色: 選択… サイズ: 10.0	

2-7. ラジオボタンを作る - ラジオボタン

ラジオボタンは複数の選択項目のうち1つだけ選択する形式のボタンです。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからラジオボタンを選択して、オブジェクト領域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。

※共通の項目に対する選択肢としてグループ化するラジオボタンは、全て同じオブジェクト名、 異なる書き出し値を設定する必要があります。

このラジオボタンに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダイア ログ内の[オプション]タブで設定を行います。 図:ラジオボタンオプション設定

表示	オプション			
書書	「出し値-			
Ťı	ック時:	Yes		
非	チェック時;			
	デフォルトで	デェックする		
	ラベルを表	示する		
テキ	7h:			
74	가: 파	MS 明朝 👤 色: 🗾 🚊	選択 サイス: 10.0 🔹	

チェックマークのスタイルを指定する

チェック時の値を指定する

デフォルトで選択状態にする

ラベルテキストを表示する

※前述の「2-6. チェックボックスを作る - チェックボックス」の項をご覧ください。

2-8. ボタンを作る - ボタン

ボタンはアクションを動作させるトリガーの役割として利用することができます。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからボタンを選択して、オブジェクト領域の開始 点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。 このボタンに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダイアログ内 の[オプション]タブで設定を行います。

図:ボタンオプション設定

表示 【オブジョン】 アウション 位置 HTML	
z\$r1W∑: tau ▼	
5^\U:	

ボタンに表示するテキストを指定する

[スタイル]

ボタンを押下した際のボタンの表示方法を指定することができます。 押下時のスタイルは、

なし:外観は変わりません。

プッシュ:押下時にボタンが押し込まれたような外観に変わります。

から選択することができます。

[ラベル設定]

ボタンに表示されるテキスト文字列を設定します。

2-9. 送信ボタンを作る - サブミットボタン

サブミットボタンは、Webサーバーへフォームデータを送信する目的に特化したボタンです。 データの送信については、「6-3. 指定したサーバースクリプトにフォームデータを送信する」 をご覧ください。

定義方法

Form エディターのオブジェクトツールバーからサブミットボタンを選択して、オブジェクト 領域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。 このサブミットボタンに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダ イアログ内の [オプション]タブで設定を行います。

図:サブミットボタンオプション設定

表示 打ジョン ア	ウション 位置 HTML
表示するラベル:	ОК
送信先URL:	http://

ボタンに表示するテキストを指定する

サブミットボタンに表示されるテキスト文字列を設定することができます。

ラベル文字列を設定するには、サブミットボタンオプション設定の[表示するラベル]にテキ スト文字列を指定します。この文字列はボタン上で中央揃えで表示されます。 ラベル文字列には最大 99 文字のテキスト文字列を指定できます。

フォームデータを処理するサーバースクリプトの URL を指定する フォームデータ送信先のサーバースクリプトの URL を指定することができます。 サーバースクリプトでは送信されたフォームデータを処理する仕組みを持っている必要があり ます。

送信先 URL を設定するには、サブミットボタンオプション設定の[送信先 URL]に URL 文字列 を指定します。

2-10. クリアボタンを作る - リセットボタン

リセットボタンは、ブラウザー上で入力、選択されたフォームデータを各入力フォームの初期 値にリセットする機能に特化したボタンです。

定義方法

Formエディターのオブジェクトツールバーからリセットボタンを選択して、オブジェクト領域の開始点から終了点までマウスをドラッグすることで作成することができます。 このリセットボタンに対する特有の設定を行うためには、入力フォームオブジェクト属性ダイ アログ内の[オプション]タブで設定を行います。

<u>図:リセットボタンオプション設定</u>

表示 わられ ア	クション 位置 HTML
表示するラベル:	CANCEL
送信先URL:	

ボタンに表示するテキストを指定する

※「2-9. 送信ボタンを作る - サブミットボタン」をご覧ください。

3. 入力フォームに特殊機能をつける

3-1. 入力したテキストの表示形式を指定する - フォーマット

テキストボックスの属性ダイアログに属する[フォーマット]タブでは、テキストボックスに 表示されるデータ形式を設定することができます。

フォーマットでは ″ 数値 ″、″ パーセント ″、″ 日付 ″ からデータ形式を指定することができます。 いずれかのフォーマットを選択することにより以下の項目で説明する詳細なフォーマット設定 を行うことができます。

入力したテキストを数値表記する

[フォーマット]タブの[分類]から ″数値 ″を選択することでテキストボックス内に入力することができる値を数値のみに設定することができます。

また、[小数点以下の桁数]、[有効桁以下の処理]、[通貨記号]、[桁区切の表記方法]、[負数の表記方法]といった設定を行うことにより入力したテキストに対して表示形式を指定する ことができます。

図:数値フォーマット設定

表示 オブション アウション フォーマット 検証 計算 位置 HTML
分類: 数值 ▼
小数点以下の桁数: 🔲 🗄 🔲 🖳 0埋めする 有効桁以下の処理: 切捨て 💌
通貨記号: なし ▼
桁区切の表記方法: 1,234.56 ▼
負数の表記方法: マイナス記号 ▼
日付の表記方法: yyyy年m月d日 🛛 🔽 直接入力を許可する

[小数点以下の桁数]

入力されたデータのテキストボックスでの小数点以下の表示桁数を指定します。設定可能な桁数は0~3桁までとなります。

桁数	出力例	桁数	出力例
0桁	1, 235	2桁	1, 234. 57
1桁	1, 234. 6	3桁	1, 234. 568

図:小数点以下の桁数 - 「1234.5678」を入力した場合

[0 埋めする]

[小数点以下の桁数]で設定した桁数まで0を表示します。

図:0埋めする-「123」を入力した場合

松干米ケ	出力例		
111 322	チェックあり	チェックなし	
0桁	123	123	
1桁	123.0	123	
2桁	123.00	123	
3桁	123.000	123	

[有効桁以下の処理]

[小数点以下の桁数]で設定した桁数以下の数値についての処理を設定します。「四捨五入」 と「切捨て」から選択できます。

図:小数点以下の桁数 - 「1234.5678」を入力した場合

■有効桁以下の処理「四捨五入」の場合			
桁数	入力値	出力例	
0	123.4	123	
0	123.5	124	
2	123. 4444	123. 444	
5	123. 4445	123. 445	

■有効桁以下の処理「切捨て」の場合

桁数	入力値	出力例
0	123. 4	123
U	123. 5	123
2	123. 4444	123.444
3	123. 4445	123.444

[通貨記号]

入力されたデータに対して指定した通貨記号をつけた形式でテキストボックス上に表示します。

設定可能な通貨記号は、

円(¥)	ドル(\$)	ポンド(£)
フラン(F)	ユ―ロ (EUR)	マルク (DM)

となります。

図:通貨記号 - 「1234」を入力した場合

通貨記号	出力例	通貨記号	出力例
円(¥)	¥1, 234	フラン(F)	1,234 F
ドル (\$)	\$1, 234	ユーロ(EUR)	EUR1, 234
ポンド (£)	£1, 234	マルク (DM)	1,234 DM

[桁区切の表記方法]

入力されたデータを指定の桁区切り方法を用いてテキストボックス上に表示します。

図:桁区切の表記方法 -	F1234. 567 (1234)	,567)」をノ	入力した場合
--------------	-------------------	----------	--------

種別	出力例
1, 234. 56	1, 234. 567
1234. 56	1234. 567

[負数の表記方法]

入力されたデータが負数の場合、指定した表記方法でテキストボックス上に表示します。

図: 負数の表記方法 - 「-1234」を入力した場合

種別	出力例	種別	出力例
マイナス記号	-1, 234	括弧囲み表記	(1, 234)
朱記表記	1, 234	カッコ囲み 朱記表記	(1, 234)

入力したテキストをパーセント表記する

[フォーマット]タブの[分類]から "パーセント "を選択することでテキストボックス内に 入力することができる値を数値のみに設定することができます。パーセントフォーマットを設 定した場合、テキストボックス上の表示は "入力した数値データ×100"の値にパーセントマー ク(%)がついた形式となります。例えば、テキストボックスに "0.5" と入力した場合にはテキ ストボックス上では "50%" と表示されます。

図:パーセントフォーマット設定

表示 オプション アウション フォーマット 検証 計算 位置 HTML
分類: ハ⁰-セント ▼
小数点以下の桁数: 🔲 📩 🔲 ថ 増めする 🛛 有効桁以下の処理: 切捨て 💽
通貨記号: なし
桁区切の表記方法: 1,234.56 ▼
自数の表記方法: マイナス記号
日付の表記方法: yyyy年m月d日 🛛 🔽 直接入力を許可する

[小数点以下の桁数]
 [0 埋めする]
 [有効桁以下の処理]
 [桁区切の表記方法]
 ※前述の『入力したテキストを数値表記する』をご覧ください。

入力したテキストを日付表記する

[フォーマット]タブの[分類]から "日付 "を選択することでテキストボックス内に入力した日付データを指定した日付形式で表示することができます。

义	:	日付	フ	ォー	マ	ッ	<u>ト設定</u>	

長示 オフジョン アクション フォーマット 検	証 計算 位置 HTML
分類: 日付 ▼	
小数点以下の桁数: 🚺 🚽 🗖 🖻	里めする 有効桁以下の処理: 切捨て 💌
通貨記号: ねし	v
桁区切の表記方法: 1,234.56	v
負数の表記方法: マイナス記号	Ŧ
日付の表記方法: yyyyy年m月d日	▼ 直接入力を許可する

[日付の表記方法]

入力された日付を表すデータを指定した日付形式でテキストボックス上に表示します。 日付の表記方法は以下の 38 種類から選択できます。

yyyy 年 m 月 d 日	yyyy 年 mm 月 dd 日	yy年m月d日
yy 年 mm 月 dd 日	yyyy/mm/dd	yyyy-mm-dd
yyyy.mm.dd	m/d	m/d/yy
m/d/yyyy	mm/dd/yy	mm/dd/yyyy
mm/yy	mm/yyyy	d-mmm
d-mmm-yy	d-mmm-yyyy	dd-mmm-yy
dd-mmm-yyyy	yy-mm-dd	mmm-yy
mmm-yyyy	mmmm—yy	mmmm-yyyy
mmm d, yyyy	mmmm d, yyyy	ge年m月d日
gge年m月d日	ggge 年 m 月 d 日	gee 年 mm 月 dd 日
ggee 年 mm 月 dd 日	gggee 年 mm 月 dd 日	ge.m.d
gge.m.d	ggge.m.d	gee.mm.dd
ggee.mm.dd	gggee.mm.dd	

※記号の意味
 yyyy:西暦年(4桁)
 ggg:元号(漢字2文字)
 g:元号(アルファベット1文字)
 ee:和暦年(数字2桁、0埋め有)
 mm:月(英語)
 mm:月(数字2桁、0埋め有)
 d:日(数字2桁、0埋め有)
 d:日(数字2桁、0埋め有)

図:日付の表記方法 - 「2005/9/1」を表す場合

種別	入力例	出力例
yyyy年mm月dd日	2005/9/1	2005年09月01日
yyyy-mm-dd	2005/9/1	2005-09-01
mm/dd/yyyy	9/1/2005	09/01/2005
mmmm d, yyyy	9/1/2005	September 1, 2005

※元号表示で「令和」以降の元号を表示する場合、以下の場所に元号設定ファイル「era_ jp. dat」ファイルを作成、または修正する必要があります。

Windows 環境: ユーザー設定(共通)フォルダーLinux 環境: ランタイム製品導入ディレクトリ

「era_jp.dat」ファイルの詳細に関してはマネージャーのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル]から「1. インストール」-「1.3 導入環境の設定」-「元号対応」をご覧ください。

「era_jp. dat」ファイルを用いた元号の設定例 ex1) era_jp. dat ファイルの記述

2019/05/01, 令和, 令, R

入力テキストの設定
 分類:日付
 日付の表記方法:gggee 年 mm 月 dd 日

変換元:2019/05/01 変換後:令和元年 05 月 01 日

ex2)

era_jp. dat ファイルの記述

2019/05/01, 令和, 令, R #元号を追加しました 2021/09/01, 久里, 久, C

入カテキストの設定 分類:日付 日付の表記方法:ge.m.d

変換元:2023/10/01 変換後:C3.10.1 [日付]フォーマットが設定されたテキストボックスでは、カレンダーを使用した日付入力を 行えます。[日付]フォーマットが設定されたテキストボックスにフォーカスが当たるとカレ ンダーアイコンが表示されます。アイコンをクリックするとカレンダーが表示され、カレンダー から日付を選択できます。

図:カレンダーアイコン / カレンダー



<< 注意 >>

オブジェクトに読取専用が設定されている場合は、カレンダーは表示されません。

[直接入力を許可する]

ユーザーによる直接入力を許可するかどうかを設定できます。設定されていない場合、カレン ダーからの入力のみが有効になります。設定されている場合、直接入力が可能となります。 << 注意 >>

[日付] フォーマットのテキストボックスに対してユーザーの直接入力により想定外の形式の 文字列が入力された場合は、フォーマットに沿った形式に変更を行います。 それができない場合は、入力されたデータがそのまま送信されます。

サブミット時の送信値

[日付]フォーマットが設定された入力テキストオブジェクトを送信した場合、「YYYY(西暦年4桁)」、「DD(月2桁)」、「MM(日2桁)」とスラッシュ(/)を組み合わせたデータが送信されます。 組み合わせの形式は「日付の表記方法」設定により変わります。(表記方法に使用されている 値の種類と順番に依存します。)

以下が送信される組み合わせの形式と、それに対応する日付の表記方法になります。

•「YYYY/MM/DD」形式 yyyy年m月d日 yy年mm月dd日 yyyy.mm.dd gge年m月d日 ggee年mm月dd日 ggee.m.d ggee.mm.dd	yyyy年mm月dd日 yyyy/mm/dd yy-mm-dd ggge年m月d日 gggee年mm月dd日 gggee.m.d gggee.mm.dd	yy年m月d日 yyyy-mm-dd ge年m月d日 gee年mm月dd日 ge.m.d gee.mm.dd
・「MM/DD/YYYY」形式 m/d/yy mm/dd/yyyy ・「DD/MM/YYYY」形式	m/d/yyyy mmm d, yyyy	mm/dd/yy mmmm d, yyyy
d-mmm-yy dd-mmm-yyyy	d-mmm-yyyy	dd-mmm-yy

 「MM/YYYY」形式 mm/yy mm/yyyy mmm-yyy mmmm-yy
 「MM/DD」形式 m/d
 「DD/MM」形式

d-mmm

```
<< 注意 >>
```

年が和暦の表記方法の場合でも、サブミット時は西暦4桁が送信されます。 月日がm形式やd形式などの0埋めされない表記方法の場合でも、サブミット時は0埋めされ た値が送信されます。

mmm-yy

mmmm-yyyy

内部値の取得・設定

フォーマットが設定されたオブジェクトの値を直接 JavaScript で取得 / 設定すると表示上の データが取得されます。そのため、内部データを直接取得 / 設定する関数を用意しています。 関数は、要素の DOM オブジェクトからアクセスできます。内部データを取得 / 設定したい要素 の DOM オブジェクトを取得し、以下の関数を実行してください。

内部データの取得

内部データを取得する場合は getInnerValue 関数を使用します。

```
element.getInnerValue()
引数
なし
戻り値
オブジェクトのフォーマット適用前内部データ
```

内部データの設定

内部データを設定する場合は set Inner Value 関数を使用します。

element.setInnerValue(value) 引数 value:オブジェクトのフォーマット適用前内部データ 戻り値 なし

setInnerValue 関数では、内部値を更新後、表示値を更新します。同名入力フォームオブジェ クトが配置されている場合は値の同期も行われます。値の同期の詳細については「5. 値の同期」 を参照してください。

[例]変数名「NAME」のオブジェクトについて、内部値を1加算する処理を記述する場合、例 えば以下のような JavaScript ソースを記述することで対応できます。

// DOM オブジェクト取得
var element = document.getElementsByName("NAME");

// 内部値を取得
var before = parseInt(element[0].getInnerValue());
// 1 加算した値を内部値に設定
element[0].setInnerValue(before + 1);

3-2. 他の入力フォーム間の値の計算結果を表示させる - 計算

テキストボックスの属性ダイアログに属する[計算]タブでは、他の入力フォームの値を用いた計算設定を行うことができます。この設定は、フォーマット設定において ″数値 ″、″パー セント ″フォーマットが設定されている場合のみ有効となります。

<u>図:計算設定</u>

表示 オブション アウション フォーマット 検証 計算 位置 HTML	
計算の種類: 和(+) _ □ 全ページ集計を行う	
計算に使うカラム:	編集
全てのカラムが空白の時 0を表示	
「固定値	
計算の種類: 和(+) ▼	
固定値: 0.000 二	

入力フォームを指定して計算に使用する

テキストボックスには他の入力フォームの値を用いた計算結果を表示することができます。 計算の方法、使用する入力フォームの指定は[計算]タブの項目で設定します。

[計算の種類]

計算方法を設定するには、[計算の種類]で、

和 差 積 商 平均 最小 最大

の中から選択します。

[全ページ集計を行う]

複数ページを出力したときに全ページの「計算に使うカラム」を集計対象にすることができま す。[全ページ集計を行う]は、[計算の種類]が以下に設定されている場合にのみ設定する ことができます。

和 平均 最小 最大

<< 注意 >>

全ページ集計では同じフォームのオブジェクトが集計対象になります。別のフォーム内に配置 されている同名変数は集計の対象外となります。 [計算に使うカラム]

[計算の種類]で選択した計算方法で計算させる入力フォームを指定します。 [編集]を押下すると計算に使用する入力フォームの選択ダイアログが表示されます。

図:計算に使用する入力フォームの選択ダイアログ

入力フォームの選択		×
全入力フォーム: DATE ICHECK001 ICHECK005 ICHCK0053 ICHCK0053 IRADIO003 IRADIO000 IRADIO0001 IRADIO002 IRADIO002 IRADIO002 IRADIO002	選択されている入力フォーム: TEXT000_R TEXT011 TEXT012_2 削除計	
	OK キャンセル	

左側には計算に使用することができる入力フォームオブジェクト名が一覧になっています。計 算に使用した入力フォームオブジェクト名を選択して[追加]をクリックすることで右側の計 算対象入力フォームの一覧に追加されます。また、計算対象から入力フォームを削除したい場 合は、右側の一覧から対象の入力フォームオブジェクト名を選択して[削除]をクリックする ことで、左側の一覧に入力フォームを戻します。

※[計算に使うカラム]で選択した入力フォームの順番は計算の順序に影響します。例え ば、[計算の種類]で"差"を選択した場合、[計算に使用するカラム]において "VALUE1(値 =5)"、"VALUE2(値=3)"、"VALUE3(値=1)"の順で追加した場合には計算は次のように行われま す。

VALUE1(5) - VALUE2(3) - VALUE3(1) = 1

この追加の順番を逆から行うと、

VALUE3(1) - VALUE2(3) - VALUE1(5) = -7

となります。つまり ″ 差 ″、 ″ 商 ″ といった計算方法が指定されている場合には、入力フォー ムの追加する順番によって計算結果が異なる可能性がありますのでご注意ください。

また、フォーム上に計算が設定された入力フォームが複数定義されている場合には、計算対象 となるオブジェクトに設定されている計算が先に行われます。

計算を設定したオブジェクトおよび「計算に使うカラム」に設定されたオブジェクトの onChange アクションをしたときに、アクションで値を更新する対象のオブジェクトは更新さ れますが、オブジェクトを計算対象としたオブジェクトの計算は行われません。

<< 注意 >>

計算を設定したオブジェクトおよび「計算に使うカラム」に設定されたオブジェクトのいずれ かの値を変更すると、その全てのオブジェクトに設定されている onBlur イベントと onChange イベントが発生します。 [全てのカラムが空白の時]

[計算に使うカラム]が全て空白のときに、計算結果に0を表示するか表示なしにするかを選 択できます。

例えば、[計算の種類]で"和"を選択し、[計算に使用するカラム]において"VALUE1(値= 空白)"、"VALUE2(値=空白)"が追加されている場合、「全てのカラムが空白の時」に[0を表 示]が選択されている場合は計算結果として"0"を表示します。[表示なし]が選択されてい る場合は、計算結果は表示されません。

<< 注意 >>

1つでも値が空白でないカラムがある場合は、「全てのカラムが空白の時」の設定にかかわら ず計算値が表示されます。このとき、空白のカラムは数値が "0" として計算されます。

任意の値を計算に使用する

前述の入力フォーム間の計算結果に対して、固定の値を用いた計算を設定することができます。 固定値を用いた計算方法は[固定値]-[計算の種類]で、

和 差 積 商

から選択することができます。

固定値を用いた計算は、次のような消費税込みの金額を算出したい場合などで有効です。

<u>計算例:VALUE1、VALUE2 の値の合計に1.08 を掛けた消費税込みの金額を VALUE3 に表示する</u> ※この計算設定は、計算結果を表示する VALUE3 で行います。 ①[計算の種類]で ["]和 ["]を選択する。 計算の種類: ^(和+) •

[計算で使用するカラム]で "VALUE1"、"VALUE2" を選択する。

計算に使うカラム: 『VALUE1", VALUE2″ 編集…

③ [固定値]の [計算の種類]で ″積 ″を選択する。

固定値 —

計算の種類: 積(×) ▼

④ [固定値]で"1.08"を指定する。 © (1080) ÷

以上の設定を行うことで VALUE3 には VALUE1、VALUE2 の値の合計に消費税を含んだ金額が表示 されます。

VALUE1 VALUE2 VALUE3 ¥1,000 + ¥500 = ¥1,620

※固定値を用いた計算は、入力フォーム間の計算結果に対して指定の値を計算させるものです。 指定の値に対して入力フォーム間の計算結果の値を計算させることはできません。このような 計算を行いたい場合には、後述の「カスタム JavaScript を使用して独自の計算方法を指定する」 をご覧ください。 3-3. 入力した(選択した)入力フォームの値を検証する - 検証

テキストボックスの [検証] タブではテキストボックスに入力できる値を制限するための設定 を行うことができます。この設定により、テキストボックス上に適切なデータのみを入力させ ることができるようになります。

表示 オプション アウション フォーマット	検証 計算 位置 HTML
値の範囲	
□ 最小値:	0.000
□ 最大値:	0.000

テキストボックスの値の範囲を数値で指定する

数値、パーセントフォーマットが設定されている場合、テキストボックス内に入力可能な最小 値、最大値を指定することができます。

最小値を検証する場合には、[最小値]の左のチェックボックスを選択して任意の最小値を指 定します。同様に、最大値を検証する場合には、[最大値]の左のチェックボックスを選択し て任意の最大値を指定します。

义	: 値	この範囲設定	Ē
L_I	直の範囲	#	
	日報	小値:	0.000
	□最	大値:	0.000

31

3-4. アクションを組み込む

アクションとは、HTMLファイルの静的な表現に加え、ページが切り替った際の動作や入力 フォームに対する操作が行われた際の動作などを設定することができる機能です。このアク ションを利用することで HTMLファイルに対して動きや対話性を高めることができます。

Create!Form Screen では、以下の項目に対してアクションを設定することができます。以下 のアクションを設定することができます。それぞれのアクションは JavaScript イベントに対応しています。

アクション ページのアクション

ページを開いた時

対応する JavaScript イベント

onload

入力フォームオブジェクトのアクション

キーボードのキーを押したとき	onkeydown
キーボードのキーを入力したとき	onkeypress
キーボードのキーを放したとき	onkeyup
クリックしたとき	onclick
ドラッグ&ドロップで選択したとき	onselect
フォーカスを外したとき	onblur
フォーカスを合わせたとき	onfocus
ポインターを範囲外に出したとき	onmouseout
ポインターを範囲内に合わせたとき	onmouseover

内容を変更したとき onchange ※計算した結果でテキストボックスが変更されるときは onchange は発生しません。

これらの項目はアクションを起こす ″きっかけ ″という意味から、以降『トリガー』と呼ぶこととします。

これらのトリガーに対して JavaScript を設定することができます。

入力フォームにアクションを組み込む

ブラウザー上で入力フォームに対してマウス操作や Tab キーによる移動などの操作が行われた際に動作するアクションを組み込むことができます。

入力フォームにアクションを組み込むには、入力フォームオブジェクト属性ダイアログ内の [アクション]タブで設定することができます。

図:入力フォームのアクション設定

: Nガー	JavaScriptイヘシト名	編集
キーボードのキーを押す	onKeyDown	
キーボードのキーを入力する	onKeyPress	
キーボードのキーを放す	onKeyUp	
りりっりする	onClick	
トラッグ&ドロップで選択する	onSelect	
フォーカスを外す	onBlur	
フォーカスを合わせる	onFocus	
ポインタを範囲外に出す	onMouseOut	
ポインタを範囲内に合わせる	onMouseOver	
内容を変更する	onChange	

[トリガー]

アクションを設定するトリガーを選択します。

[JavaScript イベント名]

選択したトリガーに対応する JavaScript イベントが表示されます。

[編集]

選択したトリガーにアクションを登録します。 登録するアクションの詳細な設定方法は、以降の内容をご覧ください。

アクションを設定できるトリガーは以下となります。

キーボードのキーを押したとき キーボードのキーを入力したとき キーボードのキーを放したとき クリックしたとき ドラッグ&ドロップで選択したとき フォーカスを外したとき フォーカスを合わせたとき ポインタを範囲外に出したとき ポインタを範囲内に合わせたとき 内容を変更したとき

<< 注意 >>

オブジェクトにより設定できるトリガーは異なります。各オブジェクトのプロパティダイアロ グの[アクション]タブ内で表示されているトリガーのみが設定可能なトリガーとなります。

ページにアクションを組み込む

ページを開いたタイミングで動作するアクションを組み込むことができます。

ページにアクションは、マネージャーのジョブのプロパティダイアログから[HTML 設定]タブの「ページを開く際のアクション」から設定することができます。

図:ジョブプロパティダイアログ[HTML 設定]タブ

	E	
HTML\$(NL: 戸籍謄抄本	交付請求書	
JavaScript/CSS		
外部ファイルの取り込み	なし 設定	
ページを間く陸のアクション	あり 設定	

アクションを組み込む - JavaScriptの実行

以下の操作を行う際に [JavaScript の編集] ダイアログが表示されます。

 Form エディター入力フォームオブジェクトプロパティダイアログ [アクション]タブの [編集] ボタンを押下したとき

 マネージャー ジョブプロパティダイアログ [HTML 設定] タブの「ページを開く際のア クション」の[設定] ボタンを押下した時

トリガーによって任意の動作を行わせたい場合には、その動作内容を JavaScript でプログラムし、アクションに組み込むことで実現することができます。

[JavaScriptの編集]ダイアログについては、「6-6. JavaScriptを使用する」をご覧ください。

3-5. 入力チェック

Create!Form Screen から出力された HTML では、ブラウザー上で入力されたデータが、オブジェクトの入力ルールと合致しない場合は警告メッセージが表示されます。

入力チェックの種類

入力チェックは以下の種類があります。

数値チェック

入力された値が数値であるかどうかをチェックします。フォーマットに[数値]または[パー セント]が設定されている場合にチェック処理が行われます。

数値範囲チェック

入力された値が、最大値 / 最小値の設定の範囲内であるかどうかをチェックします。[検証] タブの [値の範囲] が設定されている場合にチェック処理が行われます。

最大文字数チェック

入力された値が設定された最大文字数を超えていないかをチェックします。テキストボックス オブジェクトの[オプション]タブで[最大文字数の指定]が設定されている場合にチェック 処理が行われます。

必須入力チェック

必須入力が設定されている入力フォームに入力が行われているかをチェックします。[表示] タブで「必須入力」が設定されている場合にチェック処理が行われます。

入力エラー発生時の挙動

入力エラーが発生した場合、以下の3つの挙動によりユーザーへ入力エラーが発生したことを 通知します。

- 1. メッセージボックスを表示します。
- 2. エラーアイコンが表示されます。
- 3. 背景色を赤く表示します。(テキストボックスのみ)

図:エラーアイコン/背景色赤表示



入力チェックが発生するタイミング

入力チェックは入力時とサブミットボタン押下時に行われます。

入力時

対象のオブジェクトの入力値が変更されたときに、入力が行われた入力フォームに対して チェックが行われます。ただし、「必須入力チェック」は行われません。

サブミットボタン押下時

Create!Form Screen で配置されるサブミットボタンを押下したときには、全ての入力フォームに対してチェックが行われます。入力エラーが発生した場合は、サブミット処理は中断されます。

4. 外部からのデータを反映させる

- 4-1. 初期データを外部データから指定する
 - テキストボックスに表示するテキストを外部データから指定する Datamap エディター上で対象のテキストボックスに表示、出力したい文字列の記述位置をマッ ピングします。

テキストボックスに対してフォーマットが設定されている場合には、設定に対応したデータが 用意されている必要があります。例えば、数値フォーマットが設定されている入力フォームに ″あいうえお″というデータがマッピングされている場合には、警告レベルのエラーとなり入 カフォームにデータが出力されません。

同様に検証設定(数値の範囲のみ)が行われている場合においても、設定に対応したデータが 用意されている必要があります。

選択状態にするメニュー項目を外部データから指定する

Form エディターで設定したコンボボックス(もしくはリストボックス)に登録されているメニュー項目の一覧から選択状態にしたい項目の ″書き出し値 ″(書き出し値の指定がない場合には ″項目名 ″)をマッピングデータとして用意する必要があります。

コンボボックス、リストボックスでは、通常 Form エディター上で登録するメニュー項目の一 覧をマッピングデータから取り込むこともできます。この詳細については、「6-2.メニュー項 目を外部データから取り込む」をご覧ください。

チェックマークを入れる項目を外部データから指定する

ラジオボタン、もしくはチェックボックスを外部のデータを反映させて選択状態にするには、 Form エディター上のオブジェクトオプションの[書き出し値]-[チェック時]で指定されて いる値に対応したデータが用意されている必要があります。一致しない場合には、出力時に選 択状態が反映されません。

反対に、[デフォルトでチェックする]が指定されたチェックボックスを外部のデータを反映 させて非選択状態にすることもできます。この場合、Formエディター上のオブジェクトオプ ションの[書き出し値]-[非チェック時]で指定されている値に対応したデータが用意されて いる必要があります。

フォームデータの送信先 URL を外部データから指定する

サブミットボタンの送信先 URL を外部のデータから指定するには、送信先の URL を示すテキス トデータに対してデータマッピングを行います。

Form エディター上のオブジェクトオプションの [送信先 URL] で送信先が指定されている場合 でも、データマッピングが行われている場合にはマッピングデータが優先的に反映されます。

4-2. 入力フォームオブジェクトにデータマッピングを行う

Create!Form Cast / Screen では、入力フォームオブジェクトに対してデータマッピング(デー タの割り当て)を行うことで、出力時に入力フォームにデータを埋め込んだ状態でファイルを 出力することができます。 データマッピングの詳細な説明は、Designマネージャーのメニュー[ヘルプ]-[オンライン マニュアル]から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディターの操作」-「Datamap エディター」 をご覧ください。

マッピング方法

入力フォームオブジェクトのデータマッピングは他の変数のデータマッピングと同様に Datamap エディター上で行います。マッピングの方法も他の変数オブジェクト同様に行うこと ができます。

※リセットボタン、ボタンは、データマッピングを行うことができません。

マッピングデータ

マッピングされるデータとその出力結果は入力フォームオブジェクトごと、またはその設定内 容によって異なります。以下の項では、入力フォームオブジェクトごとのマッピングデータに ついて説明します。

4-3. データマッピングを行わない場合に反映される入力フォームの値

入力フォームオブジェクトは、他の変数と異なりデータマッピングを行わなくてもファイルに 出力されます。この場合、出力には各入力フォームオブジェクトの初期設定内容が反映されま す。

テキストボックス

[オプション]タブ内の「空白時に初期値を使用」が設定されている場合は、Form エディター 上のオブジェクトオプションの[初期値]に指定された文字列が出力されます。

コンボボックス

リストボックス

Form エディター上のオブジェクトオプションの登録されたメニュー項目一覧で初期選択とし て指定された項目が選択された状態として出力されます。

チェックボックス

ラジオボタン

Form エディター上のオブジェクトオプションの[デフォルトでチェックする]が設定されて いるオブジェクトが選択された状態で出力されます。設定されていない場合には、未選択状態 で出力されます。

サブミットボタン

Formエディター上のオブジェクトオプションの[送信先 URL]で指定された URL 文字列がフォームデータの送信先として設定されます。

5. 値の同期

5-1. 同名オブジェクトの値の同期

入力フォームオブジェクトでは、同名変数名で配置された複数の入力フォームオブジェクト間 で値が同期されます。また、ページインデックスが付与されていない入力フォームオブジェク トに関しても、設定により値を同期させる事ができます。

値の同期は以下のタイミングで行われます。

1. ランタイム実行時

ランタイムが実行されたタイミングで、該当オブジェクトの初期データは同期されます。 複数ページ間の同期が有効で、かつ複数ページ間で別々の値がマッピングされている場合、最 初に決定した値に基づいて値の同期が行われます。

2. HTML 上でのフォーム入力値変更時

ユーザーが HTML 上の入力フォームの入力値を変更したときに、該当オブジェクトの入力値は 同期されます。

5-2. ページインデックス

「ページインデックスを付与」の設定により、複数ページ間の同名オブジェクトで値の同期を 行うかどうかを切り替えることができます。 「ページインデックスを付与」の設定有無により、以下のような挙動になります。

・設定なし:値の同期が行われます。

・設定あり:値の同期は行われません。(※)

※同ページ内の同名オブジェクトについては値が同期されます。

「ページインデックスを付与」の設定は入力フォームオブジェクトのプロパティダイアログの [HTML] タブから設定できます。

図:[HTML]タブ

表示	オプション アウション フォーマット 検証 計算 位置	HTML	
	CSSりラス名:		
	□ ページインデッウスを付与		

5-3. 複数ページ間で値が同期されるときの挙動

ページインデックスが付与されていない入力フォームオブジェクトでは、複数ページ間で値が 同期されます。 ①改ページ出力

例えば、[NAME] というテキストボックスオブジェクトが定義されているフォームを用いて出 カされた3ページのHTMLファイル上で、1ページ目の[NAME] テキストボックスに入力を行っ た場合、2、3ページ目は以下のような内容になります。

<u>図:改ぺ-</u>	<u>-ジ時のテキストボックス(</u>	<u>の挙動</u>	
■1ペーミ	ジ目に「帳票太郎」と入け	コした場合	
2ページ目		3 ページ目	
名前:	帳票太郎	名前:	帳票太郎

■3ページ目に「帳票花子」と入力した場合 1ページ目 2ページ目

名前:	帳票花子	名前:	帳票花子

②マルチフォーム・セット出力

マルチフォーム、セット出力の場合も1フォーム内に同名入力フォームオブジェクトが繰り返 し使用されている場合、もしくは異なるフォーム内で同名入力フォームオブジェクトが複数定 義されている場合には、改ページ出力と同様にHTMLファイル内の同名入力フォームオブジェ クトは値が同期されます。

- 5-3-1. ページインデックスを付与しない場合の送信時の name 値 「ページインデックスを付与」が設定されていないオブジェクトをサブミットした時の name 値 は、入力フォームオブジェクトに設定された変数名と同値になります。
- 5-4. 複数ページ間で値を同期させたくない場合

複数ページ間で値を同期させないようにするためには、「ページインデックスを付与」の設定 を行います。

「ページインデックスを付与」が設定されたオブジェクトでは他のページの同名入力フォーム オブジェクトと値を同期しなくなります。

5-4-1. ページインデックスを付与する場合の送信時の name 値 「ページインデックスを付与」が設定されているオブジェクトをサブミットしたときの name 値 は以下のルールに従って決定されます。

変数名 _ フォーム識別子(※)_ 同一フォームの出力回数インデックス(0~)

※フォーム識別子に関しては後述します。

[例]

フォーム識別子がそれぞれformA、formBに設定されている2つのフォームが登録されている マルチフォームがあり、全てのページに「ページインデックスを付与する」の設定が行われた 変数名 [NAME] のテキストボックスオブジェクトが配置されているとします。 出力順と各ページの入力値を以下とします。 • 出力順 : formA → formB → formA

・入力値 1ページ目:「ABC」/2ページ目:「DEF」/3ページ目:「GHI」

このとき、サブミットボタンを押下したときに送信される name 値と送信値の組み合わせは以下となります。

• NAME_formA_0 : ABC

• NAME_formB_0 : DEF

• NAME_formA_1 : GHI

5-5. フォーム識別子

フォーム識別子は、各フォーム毎に設定可能なフォームを区別するための文字列です。 フォーム識別子は、入力フォームオブジェクトにページインデックスを付与した場合に、name 値の一部として使用されます。

フォーム識別子はForm エディターの [メニュー]-[フォーム設定]-[Screen 設定] タブで設 定できます。

<u>図:[Screen 設定] タブ</u>

ステーダス	用紙	サイズ 編	₩ŧド	727 V-1
lpi/cpi		表打ジェクト	Sc	reen設定
	1			
7ォーム識別子:	козекі			

5-6. 各種オブジェクト毎の同期の挙動

ここでは、値の同期が行われる場合のオブジェクト毎の挙動について説明します。

5-6-1. 同期対象のオブジェクト

以下のオブジェクトは同期対象のオブジェクトとなります。

・テキストボックスオブジェクト
 ・コンボボックスオブジェクト
 ・リストボックスオブジェクト
 ・チェックボックスオブジェクト
 ・サブミットボタンオブジェクト

5-6-2. 各種オブジェクトの同期のルール

同期される値やルールはオブジェクト種別ごとに異なります。

テキストボックス

テキストボックスでは入力された値が同名オブジェクト間で同期されます。

コンボボックス / リストボックス

コンボボックスやリストボックスでは、選択肢が同名オブジェクト間で同期されます。

チェックボックスオブジェクト

チェックボックスでは、「変数名」と「チェック時の書き出し値」の両方が一致するオブジェ クト間でチェック状態が同期されます。変数名だけが一致しているオブジェクト間ではチェッ ク状態は同期されません。

<< 注意 >>

非チェック時の書き出し値は同期のルールには影響を与えません。

6. Tips

6-1. 出力時に入力フォームの外観、状態を切り替える - FormSwitch オプション

Create!Form Cast / Screen では、出カパターンごとに入力フォームの外観等の設定を行うことができ、また出力時にFormSwitchオプション("-fsN")を実行コマンドラインに指定することでパターン別に入力フォームを出力することができます。この機能により同一の資源ファイルを使用して複数パターンの入力フォームを出力することができます。

出力パターン別に入力フォームの外観設定を行う

出力パターンごとの入力フォームの外観設定は、各入力フォームオブジェクトの属性ダイアロ グの[表示]タブで行います。

出カパターン別に設定できる項目は以下のとおりです。各項目の詳細については、「2-2.入力 フォームの外観、表示状態を設定する」をご覧ください。

境界線の有無	境界線種
境界線幅	境界線色
背景色の有無	背景色
読取専用	表示
必須入力	

入力フォームオブジェクト属性ダイアログの [表示]-[プロパティ]-[出力パターン]横の [設 定]ボタンを押下すると、[出力パターン一覧]ダイアログが表示されます。

図:[出カパターン一覧]

No	線種	線幅	線色	背景	読取専用	表示	必須入力	,
1	実線	標準		×	×	表示	×	
2	実線	標準		×	×	表示	×	
3	実線	標準		×	×	表示	×	
4	実線	標準		×	×	表示	×	
5	実線	標準		×	×	表示	×	
6	実線	標準		×	×	表示	×	
7	実線	標準		×	×	表示	×	
8	実線	標準		×	×	表示	×	
9	実線	標準		×	×	表示	×	
10	実線	標準		×	×	表示	×	•

[No.]

出力パターン番号を示します。

[線種]

境界線種を表示します。境界線の描画を行わない設定の場合には、設定なし、と表示されます。

[線幅]

境界線幅を表示します。境界線の描画を行わない設定の場合には ~ 設定なし ~ と表示されます。

[線色]

境界線色が表示されます。境界線の描画を行わない設定の場合には "×"と表示されます。

[背景]

背景色が表示されます。背景色を設定しない場合には ″×″と表示されます。

[読取専用]

読取専用の設定の有無が表示されます。設定されている場合には "O"、設定されていない場合には "X" が表示されます。

[表示]

表示の設定内容が表示されます。

[必須入力]

必須入力の設定の有無が表示されます。設定されている場合には "〇"、設定されていない場合には "×" が表示されます。

設定したい出カパターン項目を選択して[編集]ボタンを押下(もしくは項目をダブルクリック)すると[出カパターン]ダイアログが表示されます。ここでパターンに対応した入力フォームの外観設定を行います。

図:[出力パターン]

出力バターン(1)	Х
出力パ%ーン指定時の動作を設定します。 ・	
┌○ オフション設定を使用する ―――	
☑ 境界線	
線種: 実線 ▼ 線幅: 標準 ▼	
線色:	
□ 背黒	
色:	
▶ 読取専用	
表示: 表示 ▼	
□ 必須入力	

初期状態では、[表示]設定での値を反映するようになっています。パターン別の設定を行う には[パターン設定]を選択し、各項目の設定を行います。各項目の設定方法、内容は前述の 項目をご覧ください。

出カパターン別にファイルの出力を行う

アプリケーションから Create!Form Cast / Screen を呼び出してファイルを生成する際に前項 までに設定した出力パターンごとの入力フォームの外観設定を反映させるには、実行コマンド ラインに FormSwitch オプション ("-fsN")を指定して Create!Form Cast / Screen を呼び出し 実行します。

FormSwitch オプション ("-fsN") の "N" には 1 ~ 30 の出力パターン番号を指定します。指定 されない場合 ("-fs" のみ)には、"-fs1" と同じ出力が行われます。

<u>図:通常の実行例</u>

İ	自動	的車総合保険申込書	く保険申 茶保険	込書代理店控 > 料領収書写し >	送信	クリア	保険
(*	郵便番号	160-0023	電話書号	03-3360-6691			
申		·特殊的1009/109=000/107-8-25					IT油
込人	(フリカナ) 住所	東京都新宿区西新宿	7 - 5 - 3	2 5			貴会社の下記所 下記太枠内の事 事故発生の際に
~	(フリガナ)	利纳的 树					間で確認される
保	氏省	帳票 太郎				()	先貢
<u>図</u>	:Fori 「自動	n <u>Switch オプシ</u>)車総合保険申込書	<u>ヨン</u> ? く保険申 業保険	<u>を指定した</u> ^{込書代理店控} > ^{料領収書写し >}	<u>実行例</u>		保工
(*	郵便番号	160-0023	電話番号	03-3360-6691			THEITM.
甲	(7115+)	i981910791379-30791397-5-25					IT¥
込人	住所	東京都新宿区西新宿7	-5-2	2 5			貴会社の下記(下記太和内の) 事故発生の間(
_	(745+)	F19819 F29					間で確認される
保	氏名	帳票 太郎				(p)	先来

6-2. メニュー項目を外部データから取り込む

コンボボックスやリストボックスのメニュー項目は通常、Form エディター上でオブジェクト のオプション設定で登録を行いますが、Create!Form Cast / Screen ではデータマッピングを 行うことで出力時に外部のデータからメニュー項目を登録することができます。

この場合、マッピングデータとして定型のデータを用意する必要があります。

定型データ (TXT/CSV/XML/DB 共通)

selected_value;item_name1:item_value1;item_name2:item_value2;...

説明

selected_value	選択状態を示す項目の書き出し値
item_name	メニュー項目リストに追加する項目名
item_value	項目名に対応する書き出し値

データの先頭には、通常のコンボボックス / リストボックスのマッピングデータである選択状 態とする項目の書き出し値を記述します。そのデータのあとにセミコロン (';') で区切って項 目リストデータを追加していきます。1つの項目データは item_name と item_value をコロン (':') で区切ったセット (※) で構成されます。複数の項目を登録する場合には、セミコロン (';') で区切って項目のセットを追加していきます。

※追加する項目データは item_name のみでも可能です。この場合、入力フォームオブジェクト 内では項目名が書き出し値を兼ねることになります。

メニュー項目を外部データから取り込んだ場合には、入力フォーム作成時に登録したメニュー 項目は無効となります。

図:実行例

■コンボボックス(リストボックス)入力フォームオプション設定

項目名	書き出し値
☑りんご	apple
□ オレンジ	orange
ロバナナ	banana

■データマッピングとマッピングデータ

変数名	種別	属性	grape	e;いちご:st	rawberry;	Sどう grap	e;キウイ:ki	∦i;
	フィールト	コンホ				1		
						1		
■出力結里								

いちご	
ぶどう	
キウイ	

6-3. 指定したサーバースクリプトにフォームデータを送信する

サブミットフォームアクションを実行することによって、入力、もしくは選択した入力フォームのデータをWebサーバーに送信することができます。サーバーアプリケーション側では送信 されたフォームデータの形式に合わせて、スクリプトなどデータを処理する仕組みを備えてい る必要があります。

送信されるフォームデータ

各入力フォームの送信されるデータは以下のとおりです。

テキストボックス

テキストボックスに入力されたデータが送信されます。[フォーマット]設定が行われている 場合には、テキストボックス上で表示されている形式ではなく、フォーマット変換前の形式の まま送信されます。

コンボボックス / リストボックス

選択されたメニュー項目に設定されている書き出し値が送信されます。メニュー項目に書き出 し値が設定されていない場合には項目名が送信されます。 コンボボックスで[フォーマット]設定が行われている場合には、表示されているデータの形

リストボックスで [複数選択] が設定されている場合、サブミットボタンで送信される値は選 択されている項目の書き出し値をカンマ区切りで連結したデータとなります。

[例] 項目名,書き出し値が以下の設定されているとします。

式ではなく、メニュー項目に登録されている書き出し値の形式で送信されます。

name1,	va	lue1
name2,	va	lue2
name3.	va	lue3

このとき、name1 と name2 が選択されているときの送信データは「value1, value2」となります。

チェックボックス / ラジオボタン

選択された入力フォームオブジェクトに設定されている書き出し値が送信されます。

データ送信形式とその処理方法の例

フォームデータをWebサーバーに送信する際のデータ形式と、データを処理する方法例は以下 となります。

[説明]

フォームデータを POST リクエストとして送信します。

[処理例]

送信されたデータを Web サーバー側で処理するためには、HTTP POST メソッドに対応した各ス クリプト言語のフォームデータ取得メソッド(例えば Java Servlet の HttpServletRequest インターフェースで提供されている getParameter (String) 等)を利用することでフォームデー タを取得することができます。

送信時の文字コード

フォームデータを Web サーバーに送信する際の文字コードを指定できます。送信時文字コード は以下から選択できます。

UTF-8
Shift-JIS
EUC-JP
iso-2022-jp

Windows 環境の送信時文字コード設定方法

送信時文字コードはマネージャーの環境設定の [Screen 設定] タブから設定できます。

図:[Screen 設定] タブ

履歴/^ ックパッフ	17-/名前の发展	見処理 文字コ	-ト /外子設定
7 -974N9/7+21I7 49	印刷設定	リストの高さ設定	Screen設定
各種URL Screen製品で	参照するファイルの	記置場所(URL)を指	i
定してください	1101		
7471771246日	UKL		
画像774ル配置	URL		
JavaScript配3	EURL		
CSS配置URL			
入力77-A 送信時文字コ-	-F' : UTF-8	Ŷ	D
単一出力ポート認	定		
≴ -卜番号:	65500		

Linux 環境の送信時文字コード設定方法

以下に説明する送信時文字コード設定用の環境変数を設定して、送信時の文字コードを変更し てください。

文字コード設定用の環境変数 CREATE_SUBMIT_CHARSET= 値 (値:UTF8、SJIS、EUC、ISO2022) 6-4. ツールチップを表示させる

ブラウザー上でマウスが入力フォームの上にある場合、ツールチップを表示することができます。

設定は、入力フォームオブジェクトの属性ダイアログ上で行います。

<u>図:ツールチップの設定</u>

入力フォーム テキストボックス		
オブジェクト番号: 084	記述:	ΠΕΧΤ
オブジェクト名: NAME		
☞ ツールチップ: 名前		

[ツールチップ]

ツールチップ機能の使用の有無を設定します。横のテキストボックスにはツールチップとして 表示するテキスト文字列を指定します。

図:ツールチップの表示例

帳票	太郎

6-5. Tab キーで移動する順序を指定する

Create!Form Screen で出力した HTML ファイルをブラウザーで開いた際に、Tab キーを押して 移動する入力フォームの順序を指定することができます。

この設定は、Form エディターのメニューから [オプション]-[入力フォーム]-[タブオーダー] を選択して表示される [タブオーダーの設定]ダイアログで行います。

図:[タブオーダーの設定]

97° 7 -9° -0,	0設定			×
\$7°No.	オフジェクトNo). 入力フォーム名	記述	▲ 最上位へ
1	101	SUBMIT1	IOK	
2	102	SUBMIT2	IOK	上へ
3	103	B CREAR	ICLR	
4	98	B DETAIL	PBUTTON	下へ
5	104	TÖDAY	ITEXT	
6	99	HONSEKI	本籍	最下位へ
7	100	HITTOUSYA	筆頭者	
8	24	CHECK_KIND1	戸籍	有効
9	25	CHECK_KIND2	B余籍	
10	26	CHECK_KIND3	改製原戸籍	無効
11	27	CHECK_KIND4	戸籍附票	
12	28	CHECK_KIND5	PCHECK	
13	31	TOUHON_NUM	謄本請求数	
14	29	SYOUHON NAME	謄本対象者氏名	
15	106	SYOUHON DATE	ITEXT	
16	32	SYOUHON NUM	抄本請求数	
17	30	SYOUMEISYO NAME	身分証明書対象者氏名	
18	105	SYOUMEISHO DATE	ITEXT	
19	33	SYOUMEISYO NUM	証明書請求数	
20	69	USE1	続柄 二	
21	70	USE2	続柄	¥
<			>	
指定番号	个移動		ОК	キャンセル

[タブ No.]

[入力フォーム名]で示される入力フォームの現在のタブ順序番号が表示されます。

[オブジェクト No.]

[入力フォーム名]で示される入力フォームのオブジェクト生成番号が表示されます。

[入力フォーム名]

フォーム上で定義されている入力フォーム名が全て表示されます。同じ名前が付けられている 入力フォームが複数フォーム上に存在する場合、ここには複数の同名の入力フォーム名が表示 されます。この場合には[オブジェクト No.]で入力フォームを識別するか、フォーム上の入 カフォームをクリックすることでリスト内の対応する入力フォーム項目を選択状態にすること ができます。

[記述]

[入力フォーム名]で示される入力フォームを作成した際に属性ダイアログ上の[記述]で指 定した文字列が表示されます。

- 選択した入力フォームのタブ順序を先頭に指定する タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[最上位へ]ボタンをクリックします。
- 選択した入力フォームのタブ順序を最後尾に指定する タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[最下位へ]ボタンをクリックします。
- 選択した入力フォームのタブ順序を1つ上げる タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[上へ]ボタンをクリックします。
- 選択した入力フォームのタブ順序を1つ下げる タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[下へ]ボタンをクリックします。
- 選択した入力フォームのタブ順序を任意の位置に指定する
 - タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[指定番号へ移動...]ボタンをクリックする と[番号の指定]ダイアログが表示されます。
 - 図:タブ順序 [番号の指定]

タブNo.	オフジェクトNo.	入力フォーム名	記述	^	最上位へ
1	101	SUBMIT1	IOK		
2	102	SUBMIT2	IOK		上へ
3	103	B CREAR	ICLR		-
4	98	B DETAIL	PBUTTON		下^
5	104	TÖDAY	ITEXT		
6	99	HONSEKI	本籍		最下位へ
7	100	HITTOUSVA	海西县		
8	24	CH 業長の指定			有効
9	25	CH			
10	26	CH	戸籍		無効
11	27	CH 番号: 1	票		
12	28	CH	K		
13	31	TO OK	キャンセル 求数		
14	29	SY			
15	106	SYCONON_DHIL	11 LAT		
16	32	SYOUHON_NUM	抄本請求数		
17	30	SYOUMEISYO_NAME	身分証明書対象者B	紀	
18	105	SYOUMEISHO_DATE	ITEXT		
19	33	SYOUMEISYO_NUM	証明書語求数		
20	69	USE1	続柄		
21	70	USE2	続柄	~	
<				>	

任意のタブ順序番号を入力し、[OK]をクリックしてください。ここで、定義されている入力 フォーム数よりも大きな番号を指定した場合には最後尾にタブ順序が変更されます。

選択した入力フォームをタブオーダーの対象外にする

タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[無効]ボタンをクリックします。

タブオーダー対象外入力フォームを再度タブオーダーの対象にする タブ順序を変更したい入力フォームを選択し、[有効]ボタンをクリックします。

<< 注意 >>

「チェックマーク種別」に ″ グラフィカル ″ が設定されたチェックボックス / ラジオボタンは タブオーダーの対象外となります。

複数ページ時のタブオーダー

タブオーダー対象のオブジェクトが複数ページに配置されている場合、ページ内の全てのタブ オーダーオブジェクトに遷移した後に次ページの先頭オブジェクトにタブが遷移します。

6-6. JavaScript を使用する

アクションで JavaScript を用いることでそれぞれに対応した任意の動作を行わせることができます。

JavaScript をコーディングする

アクションで設定する JavaScript は、[JavaScript の編集] ダイアログでコーディングを行います。

図: [JavaScriptの編集]

III JavaScriptの編集	×
JavaScriptを指定してください。	
コパット: JavaScriptの実行	
// ダイアログ表示 var message = "" var viewerinfo = "" var viewer = iftcparamsbrowser; //var version = appviewerVersion; var desc = "のサンプリル内ではJavaScriptを組み込むことで以下の var point = "、入力項目の法調师"; var point = "、"、注信、指年前の入力項目電路》"; point = "、"」」》 var point = ""、"」」》 "注信、指年前の人力力項目電路》";	6
Yar point = " ・入力に広いた項目の読板専用切り替え¥n¥n¥n"; var point = " ・入力に広いた項目の読板専用切り替え¥n¥n¥n"; viewer info = " ご使用のビューアは [" + viewer + "] です。"; bAcrobat = true;	
message = desc + point1 + point2 + point3 + point4 + viewerinfo; alert(message,3);	
//現在日付の取得・表示 //マシンの日付を取得 var date = new Date() var year = new Date() var year = dategetfullYear(), var month = dategetfwhrth() + 1; var day = dategetDate() //記入日に値を表示 documentgetElementsByName("TODAY")[0].setInnerValue(year +	
<>	~
外部エディタ OK キャンセル	

[コメント]

この JavaScript アクションに対する任意のコメントを記述します。

[コード] JavaScript コードを記述します。 このダイアログ上では、30,000 バイトまでのコードを編集することができます。 [**外部エディター**] 外部エディターを使用して JavaScript コードを記述します。 外部エディターについては、「6-7. JavaScript を外部エディターを用いて編集する」をご覧く ださい。

[OK] をクリックすることで、JavaScript コードの登録が終了します。

6-7. JavaScript を外部エディターを用いて編集する

Form エディター上で JavaScript を作成、編集する際にあらかじめ登録されていた外部エディ ターを使用することができます。初期状態では、Windows に付属されているメモ帳が外部エディ ターとして登録されています。

任意の外部エディターを登録する

JavaScriptの登録、編集時に使用する外部エディターを登録するには、Formエディターの環 境設定で指定することができます。

Form エディターのメニューから[ファイル]-[環境設定]を選択し、[オプション2]タブの [JavaScript]で任意の外部エディターを指定してください。

図:[環境設定]

環境設定	\times
配置単位 保存形式 字体と線種 用紙 カフーバレット オブション オブション	
- データ編集 774/k(EFmEdit.dat)	
- 入力フォールオブジェクト ☞ 同名のオブジェクト確認をする。	
- JavaScript	
外部Iディタ: notepad.exe	
引数: 9%1	
標準設定を使用	
OK キャンセ	IL

[外部エディター]

使用する外部エディターのパスを指定します。[...]ボタンを押下するとファイル指定ダイア ログを利用することができます。

[引数]

外部エディターを起動する際の引数を指定します。 初期値で設定されている "%1" は外部エディターを使用して開くファイルパスを示しています。 この前後に使用する外部エディターのオプション引数を指定してください。起動時の引数に関 する詳細は、各エディターのヘルプを参照してください。 外部エディターを起動する

JavaScript アクションや JavaScript 関数を登録、編集する際に使用する [JavaScript の編集] ダイアログから [外部エディター] ボタンをクリックすることで登録されている外部エディ ターを起動させることができます。

編集の場合には、既存 JavaScript コードの内容が外部エディターに反映されます。 起動した外部エディター上で JavaScript コードを記述した後、ファイルを保存して外部エディ ターを閉じると呼び出し側のダイアログ上に編集内容が反映されます。

6-8. 外部の JavaScript / CSS を適用する

Create!Form Screen では外部の JavaScript や CSS を用いて、ページ上の動作や装飾を定義することができます。

外部ファイルの指定方法

外部 JavaScript/CSS はファイル指定と絶対パス指定の2つの方法で指定できます。

ファイル指定

ファイル指定は JavaScript URL / CSS URL に設定されたパス内でのファイルを指定する方法 です。JavaScript ファイルや CSS ファイルの置き場が決まっているときに有効です。

絶対パス指定

絶対パス指定は JavaScript や CSS の URL をフルパスで指定する取り込み方法です。ファイル 指定で対応できない場合や、ホスティングされた JavaScript / CSS を参照する場合に有効です。 ファイル名指定、絶対パス指定の JavaScript/CSS は [JavaScript/CSS の登録] ダイアログか ら設定できます。

図:[JavaScript/CSS の登録] ダイアログ

JavaSo	ript/CSSの登録		
lavaScri	pt CSS		
⊚js7;	+ルダ内ファイル指定	○ 絶対パス指定	
No.	ファイル名		
1	function1.js		
2	function2.js		
			追加
			編集
			削除
			上へ
			下へ
		OK +++>t	ル 適用(<u>A</u>)

[JS/CSS フォルダー内ファイル指定 / 絶対パス指定] 前述のファイル指定、絶対パス指定の選択を行います。

[ファイル /URL リスト]

設定されたファイルまたは URL のリストを表示します。ファイル指定の場合は、後述の[ファ イル指定で追加できるファイル]の中からコンボボックスで選択します。絶対パス指定の場合 は指定する URL をテキストで直接記述します。

[追加]

ファイル /URL を追加します。

[編集]

選択中のファイル /URL を編集します。

[削除]

選択中のファイル /URL を削除します。

[上へ]、[下へ]

選択中のファイル /URL の順序を変更します。順序を変更することにより、ファイル /URL の取 り込み順序を変更できます。

取り込み JavaScript/CSS が複数設定されている場合、以下の順番で取り込まれます。ファイ ル間に依存関係がある場合はご注意ください。

絶対パス指定 JavaScript/CSS No 昇順→ファイル指定 JavaScript/CSS No 昇順

ファイル指定で追加できるファイル

ファイル指定による URL の指定では、以下の JavaScript フォルダー / CSS フォルダーに配置 されたファイルから選択して追加できます。取り込む必要がある JavaScript / CSS ファイルは、 以下のフォルダーにコピーして配置してください。

・JavaScript フォルダー ユーザー設定(共通)フォルダー(※)直下の js フォルダー ・CSS フォルダー ユーザー設定(共通)フォルダー(※)直下の css フォルダー

※ユーザー設定(共通)フォルダーはマネージャーの [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

JavaScript フォルダー / CSS フォルダーはテスト実行の際に参照されます。そのため、本番 環境で設定される URL が有効ではない場合でもファイル指定の JavaScript / CSS を使用して テスト実行ができます。 6-9. セレクターを用いて特定のオブジェクトにアクセスする

JavaScript/CSS から特定のオブジェクトを参照する場合、セレクターを用いてアクセスします。

Create!Form Screen では、CSS クラス名と name 属性によるアクセスをサポートしています。

CSS クラス名によるアクセス

オブジェクトプロパティの [HTML] タブで設定できる [CSS クラス名]を用いてアクセスすることができます。[CSS クラス名] は半角英数字 / ハイフン / アンダーバーからなる 256 文字以内の文字列を指定できます。

<u>図:[HTML] タブ</u>

表示	オプション アクション フォーマット 検証 計算 位置 HTML	
	CSSウラス名:	
	〇 ^*-ジインデッウスを付与	

[例] CSS クラス名に "abcde" を指定した場合、JavaScript では以下のようにしてオブジェクトを取得できます。

```
// クラス名 "abcde" が設定されたオブジェクトのリストを取得
var objects = document.getElementsByClassName("abcde");
for(var i=0; i<objects.length; i++) {
    // 処理を記述(例:値を"12345"に書き換える)
    objects[i].value = "12345";
}</pre>
```

name 属性によるアクセス

オブジェクトの name 属性はオブジェクトに設定されている変数名に依存して決定されます。 オブジェクトの name 属性値はページインデックス設定の有無によって変化します。name 属性 値の詳細につきましては「5-3-1. ページインデックスを付与しない場合の送信時の name 値」、 「5-4-1. ページインデックスを付与する場合の送信時の name 値」をご参照ください。 [例] 変数名に "TEXT"を指定したページインデックスを付与しないオブジェクトの場合、 JavaScript では以下のようにしてオブジェクトを取得できます。

```
// name 値に "TEXT" が設定されたオブジェクトのリストを取得
var objects = document.getElementsByName("TEXT");
for(var i=0; i<objects.length; i++) {
    // 処理を記述(例:値を"12345"に書き換える)
    objects[i].value = "12345";
}</pre>
```

Create!Form 12

入力フォーム 第3版

発行日 発行者 2024 年 8 月 インフォテック株式会社